

IISCA（面接に基づく統合的随伴性分析）準備フォーム

機能評価面接を終えたら、この書式を用いて IISCA を作成してください。

クライアント ID		同席の保護者	
クライアントの言語能力		保護者の母国語	

1. 実施者：誰が IISCA を実施するか、またその人が実施者に選ばれた理由を書いてください。

2. 場所：分析を行う場所およびその特定のエリアを書いてください。対象者/クライアントにとって、その場所/エリアが最も快適/好ましい場所として設定するよう考慮してください。

3. 教材：分析場面で、速やかに積極的に活動参加ができたり、楽しく参加を促してくれるような設備や教材を書いてください。

また、課題を多く与えるエリアやテーブルに配置する教材を書いてください。

4. 強化中の相互交流/関わり：実施者がどこに位置し、どのように対象者/クライアントと関わるか書いてください。尚、この間の相互交流は最小限になるようにしましょう。

- 中央で椅子に座る、あるいはしゃがむ。
- 常に対象者/クライアントの方を向いている。
- 全ての質問、対人的合図、社会的参照行動、関わり合いの開始に同じように対応する。
- 対象者が何か素晴らしい事をした時には、それについてコメントをする。
- 注意事項：質問をする、対人的要求をする、指示を与える、行動の再方向づけ、教材に触れる、選択肢を与える、何ができるか思い出させる、付いて回る、などは控えましょう。

5. 確率操作を行う：実施者がどのように確率操作を進めるかを書いてください。

立つ。

優しく手を叩く。

近くに移動する。

対象者に中断または手放すよう指示を与える。

(必要であれば、音声、モデリング、身体的
プロンプトの順で、プロンプトを使用する。)

対象者に、課題を多く与えるエリアに移動するよ
う指示を与える。

対象者に、学習の準備をするよう指示を与える。

難しい仕事や課題を終わらせる、期待に応えるよ
う指示を与える。

進行中の注意事項：

- 声かけや身体的な再方向づけを使って、常同行動
を最小限に抑えること。
- いかなる要求にも応じないこと。
- 社会的合図に対する強化を再方向づける/最小限に
抑えること。
- 問題行動が起こる可能性が大きい場面では、他の人
に注意を向けておくこと。

6. 問題行動への対応：確率操作時に起こる問題行動に対して、実施者がどう対応するのが良いか書いてください。

7. 離席時の対応：対象者が分析エリアを離れてしまった時、実施者がどう対応するのが良いか書いてください。

8. 安全確保：安全のために、通常の手続きに変更を加えるべきことがあれば書いてください。

9. データ収集：重度の問題行動を定義してください。(これらは、データ収集時 R1 としてデータ収集します。)

重度の問題行動の前兆となる行動、危険度の低い関連する問題行動、その問題行動が起きる手がかりとなる行動を定義してくだ
さい。(これらは、データ収集時 R2 としてデータ収集します。)